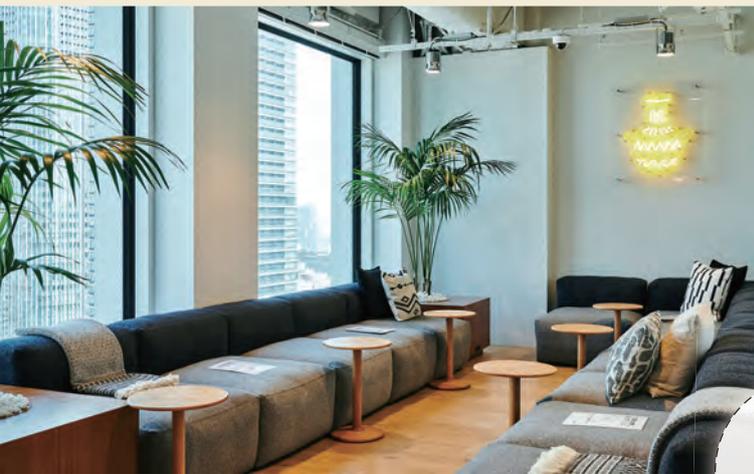


いまどき オフィス探訪

1日の大半を過ごすオフィス。せつくならば、働きやすい環境を整えたいところ。いまどきのオフィスを訪ね、これからのオフィス環境のあり方を探ります。

コミュニケーションが主目的! 在宅勤務を前提とした ニューノーマルオフィス



▲ラウンジスペース (コミュニティーエリア)
コーヒーやビールなどを飲みながら様々な人と交流することができる。



PayPay 株式会社 本社

- 所在地 神谷町トラストタワー
WeWork 内 (東京都港区)
- 業 種 モバイルペイメント等電子
決済サービスの開発・提供

◀ラウンジスペース (コミュニティーエリア)

自社従業員以外の WeWork 利用者も立ち入ることができる。偶発的な出会いやコラボレーション企画が生まれることも。

□ ロナ禍において、急速に広まったテレワークにより、オフィスを整理・縮小する企業が増えてきている。いち早くオフィススペースを減床させた企業を訪ねた。

作業・商談の場から コミュニケーションの場へ

電子決済サービスの開発・提供を行なう PayPay 株式会社は、従業員増により東京の本社オフィス移転を検討していた最中に新型コロナウイルス感染症の拡大に見舞われた。そこで新たなオフィスのあり方を模索し、WeWork Japan と共同で、在宅での勤務を原則とし、作業のための出社は不要とする人事制度を設け、オフィスのあり方を見直した。

コロナ禍以前は、オフィスでの勤務を基本としていたが、新オフィスでは、総席数を従来から大幅に削減するとともに、出社率の上限を25%とすることによって、ソーシャルディスタンスの確保を徹底した。

オフィスを「作業・商談の場」から「チームワークによる新しい価値を創出する場所、従業員のエンゲージメントを高める場所」と再定義し、キッチンカウンターを



▲オープンワークスペース

ブレインストーミングや議論がしやすいように、ソファ、ディスプレイ、ホワイトボードなどを設置。



▲オープンワークスペース

東京タワーを目の前に宴会できる日もそう遠くない……？

▼デスク・ワークエリア

3密回避のため、アクリル板を設置し、隣席とのスペース確保のため、デスク下に防災用品を収納している。



▲個室スペース

Web会議や作業に集中したいときに便利な集中スペース。

写真 田中祐介

設置したラウンジスペースや、開放的なワークスペースなどを設けて、コミュニケーションが促進される工夫を施した。

オフィスの各スペースにはディスプレイが設置され、どこでも社内外とのコミュニケーションが取れるように配慮されている。コミュニケーションツールは、SlackやZoomを利用。また、Slack上に各部署の雑談部屋を設けて、在宅勤務でも気軽にコミュニケーションを図れるようにした。

出社率は、社員の位置を見える化するビーコン（発信機）で管理。削減した席数に対して20%～30%の出社率を維持している。

コロナをきっかけに始めた在宅勤務だが、緊急事態宣言中に「在宅勤務でパフォーマンスは変化したか」というアンケートを実施したところ、「下がった」と回答した人は1割程度で、「上がった」変わらない」が7～8割ほどであったこともあり、在宅勤務を原則とする勤務体制を継続している。

また、サテライトオフィスも整備しており、従業員は、国内6都市、30拠点以上あるシェアオフィス「WeWork」のコミュニケーションエリアをいつでも利用できる。